

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>大平 英樹 (おおひら ひでき)</p>	<p>所属</p>	<p>名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻心理学講座</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 44名 (うち認定心理士3名) 非会員 34名 (うち認定心理士0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>【研究集会】 目的：知識及び技術の普及と共有化を図るとともに、会員同士の交流を深めることで本研究分野の発展を目指す。また、研究発表、ディスカッションを通じて若手研究者の育成に努める。 内容：6月と12月の2回、研究集会を開催し、1題の特別講演と総計9題の研究が報告された。本研究領域における基礎・応用研究の発表、さらには周辺領域の研究発表に基づき、研究領域の現状と今後の課題について議論した。 成果：本研究領域の流れと今後の問題が明確化され、問題解決の方策を検討することが出来た。また、個人発表および最新の測定技術の演習を行うにより、発表者の研究課題と解決への方策が明確化された。研究者間の交流を深めることが出来た。さらに、定期的に研究集会を開催することにより、他領域に所属する会員が増え、研究会の拡充を図ることができた。</p> <p>第8回研究集会 日程：平成20年6月7日(土) 場所：別府大学 プログラム：(下記)</p> <p>特別講演 田中豪一 (札幌医科大学) 『アロスタシス理論を導入した新しい慢性ストレス研究』</p> <p>研究発表</p> <p>演題1 岡村尚昌 他 (久留米大学医学部高次脳疾患研究所) 『女性大学職員における主観的幸福感と起床時コルチゾール反応との関係』</p> <p>演題2 井澤修平 (早稲田大学 先端科学・健康医療融合研究機構生命医療工学研究所) 『日常のストレス経験に伴う唾液中ステロイドホルモン分泌の変化』</p> <p>演題3 永岑光恵 他 (国立精神・神経センター精神保健研究所) 『犯罪被害者遺族の精神健康と日内コルチゾール分泌変化』</p> <p>演題4 松永昌宏 (藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院神経内科) 『脳腸相関とオキシトシン ～ストレス社会に利く薬?～』</p> <p>第9回研究集会 日程：平成20年12月7日(日)</p>		

場所：東京大学
プログラム：(下記)

研究発表

演題 1 山川香織 (名古屋大学大学院環境学研究科)

『急性ストレス負荷時の気分状態・自律神経系・内分泌系・免疫系の変化と特性不安との関連ーサイトカインの変動に着目してー』

演題 2 吉江路子 他 (東京大学大学院総合文化研究科, 日本学術振興会)

『ストレスフルなピアノ演奏状況における上肢筋活動及び自律神経反応』

演題 3 小川奈美子 (早稲田大学大学院人間科学研究科)

『唾液採取時に使用する素材と室温保存の経過日数による濃度変化の検討ーDHEA-S, DHEA, Cortisolー』

演題 4 福田早苗 (大阪市立大学大学院医学研究科システム神経科学)

『透析患者の疲労と内分泌・自律神経との関連』

演題 5 坂口菊恵 (お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科・日本学術振興会)

『繁殖戦略・コミュニケーション特性の個人差と内分泌学的背景』

【日本心理学会第 72 回大会：ワークショップ】

日程：平成 20 年 9 月 21 日

場所：北海道大学

テーマ：精神神経内分泌免疫学におけるナチュラル・キラー (NK) 細胞

企 画：社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会

司会者：磯和勅子 三重大学医学部看護学科

話題提供者：木村健太 東京大学総合文化研究科・日本学術振興会

宮崎隆穂 新潟青陵大学短期大学部

松永昌宏 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院神経内科

指定討論者：寺尾恵治 医薬基盤研究所・霊長類医科学研究センター

成果：NK 細胞を用いた PNEI 研究の動向および最新の研究成果を提供した。3 名の話題提供者より NK 細胞と感情・ストレスに関連する基礎および応用研究の結果を報告した上で、今後の PNEI 研究における NK 細胞測定の意義と発展性を議論した。